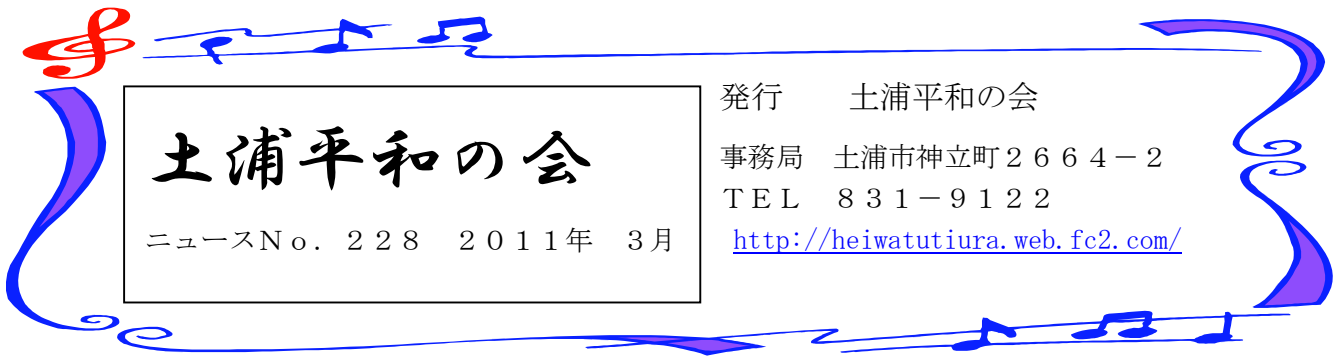


私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



土浦平和の会

ニュースNo. 228 2011年 3月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>

世界を震撼させたシビアアクシデント

福島第1原発事故はスリーマイルを越えてレベル6

3月11日の大地震・大津波とそれに起因する福島第1原発の原子炉事故の後、土浦では革新懇主催による原発学習会（25日長坂慎一郎氏）と核戦争を防止し平和を求める茨城医療人の会主催の緊急事故報告会（27日原子力資料情報室 上澤千尋氏）が開催されました。

沈静化には長い年月が必要

— 体内被曝による晩発性障害や放射性物質の生物濃縮が心配 —

長坂氏は「原子炉は停止したけれども、炉を冷やす、閉じ込める作業は1週間、2週間で終わる問題ではない」「つくばKEKのデータによると16日の時点で放射能強度が大きく跳ね上がっている。14日の3号機の水素爆発によるものと思われる」「燃料棒の破損が有ったようで、チェルノブイリに匹敵する放射能の拡散がある」「政府発表は安全神話に基づいているので安心できない」「ニューヨークタイムスによると、80km地点でも血液の科学的変化の可能性がある」「土浦では逃げ出す状況ではないけれども、半減期の長いセシウムは晩発性障害の恐れがあるので注意が必要」「放射性物質が海に流れ出ると食物連鎖によって濃縮される心配がある。土壌の中でどうなるのかは分からない」など基本的な問題点、注意点を報告されました。

炉内燃料も貯蔵燃料も損傷

上澤氏は原子炉の構造、現在起こっている事故の状況、放射線が人体に与える影響などについて、専門的な資料を使って解説、報告されました。「原子炉の中心の圧力容器内で冷却水の水位が下がり燃料溶解が起こっている。」「格納容器の一部が壊れて放射能が漏れ出している」「4号炉の使用済み燃料プールにある大量の燃料棒（1,331本）が壊れると核分裂が起こって臨界に達する可能性もありうる」など起こってはならない過酷事故が進行していることが報告されました。

生涯学習センター中講義室の通路階段まで埋め尽くした参加者からは「『1時間何マイクロシーベルトだからまだ人体に影響がない』という発表は信用できない。毎日これを浴び続けると1ヶ月で何ミリシーベルトになるのか計算すると心配だ。」「何時までこの状態が続くのかと言う見通しがなければ不安だ。」「安全神話が崩れてしまった以上この危険な原子炉は直ちに廃炉にすべきだ。」などのきびしい意見も出されました。

猛毒のプルトニウムも・・・

原発の敷地内で28日微量のプルトニウムが検出された。燃料棒が破損した1号炉から4号炉のいずれからも可能性があるが、3号炉ではプルトニウム混合燃料を使用していることから危険性は高い。

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます
 私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

新聞記事から分かったこと

40km地点でも高濃度セシウム

福島第1原発から北西40kmの飯館村の土壤中で20日1キログラムあたり16万3千ベクレルのセシウムが検出された。1平米に換算すると326万ベクレルになるという。チェルノブイリでは55万ベクレル以上の地域が強制移住の対象になった。

2号炉の燃料は原型を留めない

2号炉は燃料棒が一時的に全露出したとみられ、圧力抑制室で爆発があった。スリーマイルでは事故発生から4時間で炉心の溶融物が圧力容器の底に流れ落ちた。

今のところ中性子は検出されず

燃料棒の崩壊によって放射性物質から中性子が出る可能性があるが、今のところ検出されていないので、核分裂は収まっていると思われる。臨界の可能性は少ないといえる。

東海第2原発でも故障

日本原電東海第2原発でも地震直後、津波に襲われ非常用ディーゼル発電機冷却用のポンプ1台が水没し、3台ある発電機のうち1台が停止していた。

東海第2原発は11日の地震で緊急停止し、外部からの電源供給が途絶え、3台の非常用ディーゼル発電機が起動したが、1台はその後津波のため使えなくなったと言います。本当に怖い話。

海水汚染は基準の1000倍

1~4号機放水口の放射能濃度は安全基準の1、250倍、5、6号機放水口の濃度も1、150倍。食物連鎖による濃縮も心配だが、水産庁の森田氏によると、魚の体内に入ったセシウムは50日後には半分が体外に排出されるので、他の化学物質と比べて濃縮されにくいと言う。

作業員の安全はどうなっているのか

電源復旧作業に当たっている作業員3人が被曝して入院しました。170~180ミリシーベルトの被曝だといいます。被曝上限の累積100ミリを超える被曝をした社員は14人だと言います。3人はいずれも20~30代の協力会社社員だと言いますが、水深15センチのところまで水につかって作業をしていたと言います。こんなことを放置していいのでしょうか。

活動ごよみ

2・28 ニコエコ第1回実行委員会
 3・5 県平活動交流集会
 3・15 平和の会理事会（地震のため延期）

3・25 原発学習会（革新懇 1中地区公）
 3・27 原発学習会（医療人の会 うらら）
 4・3 平和の会理事会（保健生協事務所）